



言語活動の充実（「単語」でなく「文」で会話を）

校長 梶谷 雅弘

新しい学習指導要領では、教育内容に関する改善事項として、「言語活動の充実」が盛り込まれました。この「言語活動の充実」は、「言葉の力を育てる活動の充実」と言い換えた方が分かりやすいかもしれません。

私たちが、生きている21世紀の社会は、環境問題を始めとした様々な問題が山積しています。そこで大切になるのは、論理的な思考や感性を働かせながら問題解決の方法を探り、自分の考えを自分の言葉で表現する能力です。

PISAでも読解力を「自分の目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義していますが、自己実現や社会参加のための重要な道具として、言語を活用できる能力を獲得することが不可欠となります。

言語活動の充実のための第一歩として、学校では、「単語」ではなく「文」で会話をするように日々次のように児童の指導に当たっています。

「先生、トイレ。」「お母さん、水。」「底辺。」というように、単語による会話は、早くて簡単なものの代表的なものです。授業中、申し訳なさそうに、「先生、授業中すみません。トイレに行かせてください。」と、文で言うように指導すべきだと思います。

「お母さん、のどがかわいたから、お水ちょうだい（ください）。」と、文で言ったら、親子の間にかわきは生じないと思います。

教師は、「行四辺形の面積は、何と高さがわかっていると求められますか。」と問い、子供が、「底辺がわかれば求められます。」、もっと丁寧に「平行四辺形の面積は、高さのほかに、底辺がわかると求められます。」などと文で答えたら、この子供はきっと理解が深まると思います。



1年生を迎える会より

新しい小学校学習指導要領では、国語科をはじめ各教科の中でも、言語活動を大切にして指導することになりました。それは、したことや考えたことは言葉によって表現し、言葉を遣って考え、言葉によって判断しているからです。

つまり、言語は知的活動の基盤になっているのです。

そこで、観察・実験、見学して分かったことや考えたことなどは、記録させたりレポートにまとめたりさせます。式を立て、計算をして答えを書くだけでなく、なぜそうなるのか、どうしてそれでよいか根拠を挙げて説明（証明）できるようにさせます。

これまで学んだことと似ている点と結び付け、これもそうなるのではと考え（類推的な考え）たり、いくつかの例に共通することからこのようなことがいえると考え（帰納する考え）たり、既に学習して分かっていることを基にして理詰めと考え（演繹的な考え）たりなどして、筋道立てて説明できるようにさせます。

体験したことを言葉や図、式などを使って表現し内面化して、知識・技能、考え方として整理します。また、伝え合い、学び合い、高め合うなど言語は、知的なやり取り（コミュニケーション）にも役立ちます。

単語でなく、文で会話すると、考える力が高まるとも言われています。

学校では授業の中で言語の指導を工夫していきます。ご家庭や地域でも、意識して、児童の言葉遣いに関心を寄せていただければ幸いです。